



ヘリテージマネージャーの解説でめぐる<sup>おおうちし</sup>大内氏ゆかりの<sup>けんぞうぶつ</sup>建造物——。  
 こくほう り こうじごじゅうのとう 国指定重要文化財「八坂神社本  
 殿」<sup>りゅうふくじほんどう</sup>「龍福寺本堂」など、<sup>やまぐちしおおどの</sup>山口市大殿エリアには<sup>ぶんかざいけんぞうぶつ</sup>貴重な文化財建造物が

集中しています。これらの建造物は、西国一の守護大名とまでいわれた大内氏の歴代当主たちに深いゆかりがあるものがほとんどで、歴史背景を重ね合わせると、数々のドラマに彩られた大内氏の栄枯盛衰が浮かび上がります。防長統一を果たし、ここ山口へと拠点を移したとされる大内弘世(1325?~1380年)から、事実上の滅亡を招いた大内義隆(1507~1551年)へと至るおよそ200年。この期間とその前後に創建された大内氏ゆかりの建造物について、「建築文化」をテーマに<sup>ひもと</sup>紐解きます。なかでも「瑠璃光寺五重塔」(1442年頃建立)、<sup>こんりゅう こうのみねさんろく</sup>高嶺山麓への<sup>せんざ</sup>遷座時(1519年)に新築された「八坂神社本殿」(現在地へ移るのは江戸時代末期)はこれまでに修理が重ねられているとはいえ、<sup>ふ</sup>当時の姿、構造をそのまま残しています。屋根の<sup>ふ</sup>葺き方や建物の構造など、それぞれの年代ごとの特色を間近に見ながら、いつもとはちょっと異なる視点で大内氏の歴史に触れてみませんか？

合わせて見学！  
**山口市歴史民俗資料館** TEL/FAX 083-924-7001

山口市は大内氏の本拠地として栄えた中世をはじめ、地域ごと、時代ごとに特色ある歴史と文化を持っています。それらを様々な資料から紹介しています。

〒753-0073 山口県山口市春日町5番1号 ✉ yrekimin@c-able.ne.jp <https://yrekimin.jp/>



- 開館時間 / 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日 / 月曜日 (祝日の場合は開館、翌平日振替休館)、年末年始
- 観覧料 / 110円 ※18歳以下・70歳以上の方、障がいのある方及びその付添人は無料 ※20名以上は、団体割引料金で観覧できます。団体観覧料は一人につき88円。
- 交通 / 山陽新幹線 新山口駅下車 [JR山口線乗換] 山口駅下車…徒歩約25分 [バス乗換] 山口県庁前下車…徒歩3分

【発行】山口市教育委員会文化財保護課 【協力】ヘリテージマネージャー 沼田 登

【問い合わせ】**大路ロビー**  
 NPO法人 大路小路まち・ひとづくりネットワーク  
 山口市下堅小路115-3 ☎083-920-9220 <http://ojilobby.jp>  
 10:00~17:00 [休館日] 火曜定休 (祝日の場合は開館、翌平日振替休館)、盆・年末年始

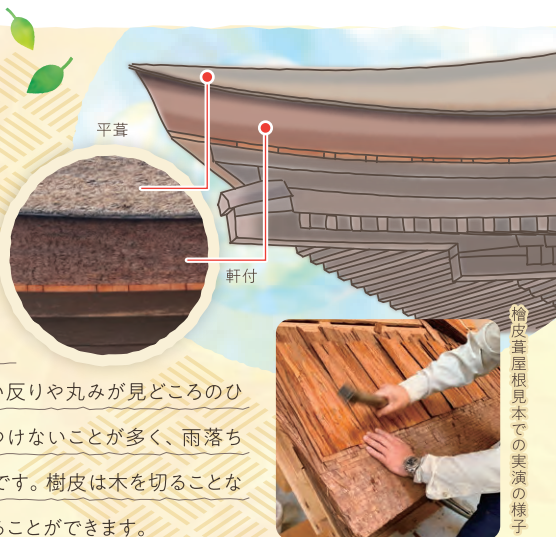
**建造物一覧**

- 瑠璃光寺五重塔(国宝)
- 今八幡宮本殿・拝殿・楼門(重要文化財)、洞春寺観音堂・山門(重要文化財)、古熊神社本殿・拝殿(重要文化財)、八坂神社本殿(重要文化財)・拝殿、龍福寺本堂(重要文化財)、築山神社本殿・拝殿(市指定文化財)、八柱神社



# 1. 檜皮葺

檜皮葺とは、日本独自の屋根建築の工法で、材料となる檜の樹皮を、竹釘を使って何層にも重ねて葺く技術です。山口市の文化財建造物で多くみられ、複雑な形状や曲線を作ることができ、屋根の美しい反りや丸みが見どころのひとつです。美しい軒を見せるため、雨樋をつけないことが多く、雨落ち部分が早く傷むため、定期的な葺替が必要です。樹皮は木を切ることなく剥ぎ取るため、10年間隔で何度も採取することができます。



檜皮葺屋根見本での実演の様子

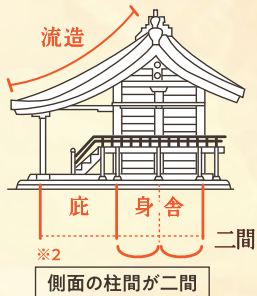
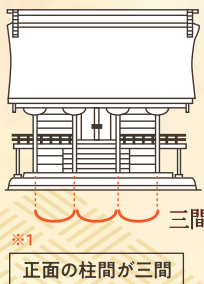
**で見られる!** 瑠璃光寺五重塔(国宝)、古熊神社本殿(重要文化財)、龍福寺本堂(重要文化財)

# 2. 神社の建築形式

屋根の正面が手前に延びる流造は、中世の神社本殿形式で最も多い構造です。山口市内では「三間社流造」が多くみられます。三間社流造とは、屋根は切妻のそり屋根で桁行三間※1、梁間二間※2の身舎の正面流れ方向に一間の平入りの庇空間が付加されたものを言います。また、古熊神社本殿は、桁行三間梁間二間、屋根は入母屋の檜皮葺で、楼拝殿造と呼ばれる拝殿を有します。楼拝殿造とは、楼門に翼廊をつけ、両方に床を張って拝殿の役目を持たせた山口地方特有の形式です。



八坂神社



**で見られる!** 今八幡宮本殿・拝殿・楼門(重要文化財)、古熊神社本殿・拝殿(重要文化財)、八坂神社本殿(重要文化財)・拝殿

# 3. 寺院の建築様式

多くの寺院建築の屋根は入母屋造で、間取りなどを変化させ時代の変遷に対応している場合がほとんどです。時代や宗派が変わっても屋根の形状に変化がないことから、建物の転用が可能となりました。現在の龍福寺の本堂は興隆寺(山口市大内氷上)の釈迦堂を、国宝不動院金堂(広島市)は現在の瑠璃光寺五重塔とともにあった香積寺の建物を移築したものです。洞春寺の観音堂は室町時代の建物で、禅宗様の特色が見られます。柱は礎石の上に置いた礎盤の上に立ち、上下を丸くすぼめた粽をつけ、内部の床は張らずに正方形の瓦を斜めに敷く四半敷きが用いられています。



洞春寺観音堂

ぜんしゅうよう

**で見られる!** 瑠璃光寺五重塔(国宝)、洞春寺観音堂(重要文化財)、龍福寺本堂(重要文化財)

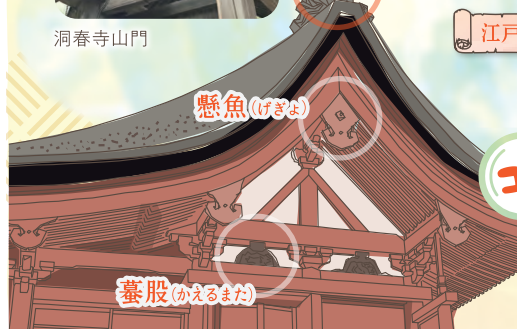
# 4. 装飾

建物の装飾(オーナメント)は、時代の影響を受けて変化していく様子を見ることができます。棟木の小口を雨風から守る装飾を「懸魚」と言い、しゃちほこ同様に水をイメージさせ火除けの意味があります。下部に柱のない桁の間に置かれ屋根の重さを支える「葦股」、隅柱の貫や梁が突き出た部分「木鼻」は、中世ではシンプルな文様が見られますが、江戸時代になると動物のモチーフの彫刻が使われるなど華やかさを増します。



洞春寺山門

(おにいた) 鬼板 (Oni-ita)



八柱神社(今八幡宮境内)

**で見られる!** 洞春寺山門(重要文化財)、八坂神社本殿(重要文化財)、築山神社本殿・拝殿(市指定文化財)、八柱神社 ほか